




アルガフォーラム 2024

報告集

2024.11.9（土）～17（日）



私のちようどういい、
心地よさを探す

主催／アルガフォーラム 2024 実行委員会・新潟市



☆ 主催者あいさつ



本日は、アルザフォーラム 2024 基調講演にご参加いただき、ありがとうございます。

今年は、「わたしとか 社会とか 居場所とか～生きやすさはどこにある?～」と題し、ジェーン・スーさんにご講演をいただきます。ジェーン・スーさんは、現在、ラジオパーソナリティとして、数多くの番組でご活躍されています。また、多くの地方自治体などでも、ご講演されており、本日はお忙しい中、新潟市にお越しいただきました。男性、女性を問わず、誰もが“〇〇らしさ”などにとらわれず、心地よい生き方を実現するにはどうすれば良いのか、お話ししたいと思っています。

最後に、このアルザフォーラムが皆さまにとって、新たな気づきを得て、自分らしさを改めて考えるきっかけにしていれば、大変ありがたく思います。

アルザフォーラム 2024 実行委員会
代表 森田 妙子



本日は、アルザフォーラム 2024 の基調講演に、多くの皆さまからご参加をいただき、誠にありがとうございます。

今回のアルザフォーラムは「私のちょうどいい、心地よさを探す」をテーマに、分科会や様々なワークショップなどが開催されています。

本日は、コラムニスト・ラジオパーソナリティとしてご活躍のジェーン・スーさんをお招きし、「わたしとか 社会とか 居場所とか ～生きやすさはどこにある?～」と題して、お話しいただきます。言語化の魔術師、人生相談の名手であるジェーン・スーさんのお話から、男性、女性を問わず、皆さまが「らしさ」などにとらわれず、心地よい生き方のヒントを得て、自分らしい生き方について考えるきっかけになればと思います。

本フォーラムの成功と本日もご参加いただいている皆さまのご健勝を祈念して、あいさついたします。

新潟市市民生活部長 鈴木 稔直

アルザフォーラム 2024

延べ人数 1,149 人

開催日	区分	催し物	主催者	人数	ページ
11/16 (土)	基調講演	わたしとか 社会とか 居場所とか ～生きやすさはどこにある?～	アルザフォーラム実行委員会	277	3
11/9 (土)	分科会	モヤっとすること、あるあるを見る化 ～「ジェンダーギャップを考えるカルタ」 で学ぼう～	アルザフォーラム実行委員会	26	4
11/13 (水)	学校連携事業	自分もまわりも大切に ～無意識の思い込みとジェンダーの話～	アルザフォーラム実行委員会	70	5
11/9 (土)	DVD 上映会	ぼけますから、よろしくお願ひします。 ～おかえり お母さん～	アルザフォーラム実行委員会	174	16
11/15 (金)		燃えあがる女性記者たち		57	
11/9 (土)	ワーク ショップ	コラーージュで自分探しの旅に出かけませ んか	放送大学心理臨床研修会・新潟	4	6
11/9 (土)		離婚後の共同親権「子どもにとっての最 善の利益」とは?	NPO法人 女のスペース・に いがた	45	6
11/9 (土)		NJ カフェ (にいがた女性会議カフェ)	にいがた女性会議	13	7
11/10 (日)		男性も女性も若々しく・はつらつと生き る	新潟市消費者協会	28	7
11/10 (日)		笑いヨガ無料体験会	NPO法人 健康生きがづくり 新潟	10	8
11/10 (日)		おたがいさまの支え合い劇	劇団あかつき	67	8
11/10 (日)		生活革命の時代を生きた新潟の女性たち ～彼女たちの証言から～	フードバンクにいがた	3	9
11/10 (日)		初心者でも安心! 会議の種類に応じたフ ァシリテーションを学ぼう	NPO法人 日本ファシリテー ション協会新潟サロン	13	9
11/10 (日)		「人生会議」のゲームを楽しみませ んか?	特定非営利活動法人 新潟キャ リアコンサルタント協会	9	10
11/12 (火)		防災カフェ in アルザ～被災地の現状と これから～	わいわい夢工房	15	10
11/12 (火)		「つなぐ」～支え合い誰もが安心して暮 らせる村～	にいがた女性会議 介護・自立 部会	18	11
11/12 (火)		ジェンダーの視点から見た性の多様性	にいがた女性会議 男女平等教 育部会	10	11
11/14 (木)		カーリンコンの楽しさが あなたを健康 にします!	新潟県カーリンコン協会	9	12
11/16 (土)		家族が変わる! ?～女性や家族に関する 法律や制度の改正点をめぐって～	NPO法人 ウィメンズサポー トセンターにいがた	7	12
11/17 (日)		講演会・座談会 「LGBTQ+を知ろう・ 語ろう・つながろう」	カトリア会	11	13
11/17 (日)		「親の想い、子にどう伝える?」	イキイキ健康ふれ愛クラブ元気 塾	9	13
11/17 (日)		どうする? 子どもの人権侵害 ―ヤング ケアラーの実態調査から―	にいがた女性会議 子どもの人 権・子育て支援部会	24	14
11/4 (月・祝)	協賛事業	上映会『Team その子』&「解離あるあ る」トーク	NPO法人 女のスペース・に いがた	85	15
11/17 (日)		女たちのパイレーツオブ日本海2 ～大海原へ! 闘う島の女たちと共に～	劇団 blue ジーンズ	165	15



「わたしとか 社会とか 居場所とか ～生きやすさはどこにある?～」

講師 ジェーン・スーさん
(コラムニスト・ラジオパーソナリティ)



「私らしさ」や「居場所」の見つけ方をテーマに、ジェーン・スーさんが考える「生きやすさ」や「生きにくさ」は何かについて、ご講演いただきました。

講演の中で、「私らしさ」に影響する自信の正体や自己受容に必要な安心・安全・受容の3つのことについて、事例を交えながらわかりやすくお話いただきました。

また、今は「絶対的orrect解のない時代」で、今まで「普通」と思っていたことは、正解が1つしかない社会だった時にいびつな形で当てはめようとしたものであることを実体験とともにお話くださいました。自己受容のためには、アップデートも大切とのことでした。

「居場所」とは心を休めることができ、活躍できる場所、またそこにいてもいいと感じられるところで、誰もがここにいてもいいと思えれば、「私らしさ」が発揮できるとのことでした。

自分が生きやすくなり、また他者に対しての生きやすさにもつながるコミュニティをつくっていくことが、「私らしさ」や「生きやすさ」につながっていくので、誰にとっても暮らしやすい地域社会をつくっていけたらいいとおっしゃっていました。

講演の最後に、ジェーン・スーさんは参加者からのたくさんの質問に1つ1つ丁寧に答えてくださり、講演時間をオーバーするほどでした。参加者の皆さんがとても満足した講演会になりました。



＜参加者の感想＞

- ・ 自分の中で変えていきたいこと（固定観念や古い価値観など）の意識はあっても、方法がわからなくてモヤモヤしていたことの変え方のヒントが得られました。
- ・ 大好きなスーさんの講演会、ありがとうございました！話は、分かりやすいし、新たな気づき、本当に良かったです。これからの社会、私も他者にとっても居心地のいいように変えていけたらと思います。
- ・ スーさんの話の中で自分の気持ちの気づきがあったり、当たり前と思っていた事に違和感があったり勉強になりました。
- ・ 目からウロコの内容でした。スーさんの言っていた社会になればいいと思います。スーさんの言っていた「わたし」を目指したいです。
- ・ 世代的にも男女の格差があまりない中で育てて生きてきたと思っていたが、今日の講演を聞いて、無意識の部分、自分が全く自覚していない部分で実はたくさん「女らしさ」に捉われていたことに気付いた。少しずつ、自分の意識を変えていきたい、変えていけるかもと思う、いいきっかけになった。
- ・ 最後までひきつけられる内容で時間があっという間に感じられました。質問にも一人ひとりの確に時間を精一杯使ってくれとても満足できました。
- ・ 性別による生きづらさ、家族の価値観による生きづらさなど、理解をしつつ、上手にかわっていくことも大切だと思いました。
- ・ ユーモアあり軽快な語りジェーン・スーさんのお話、本当に良かったです！！メモを取りながら聴いていたので、日々の生活に仕事にとジェーン・スーさんの言葉を参考にしたいと思います。素晴らしい講演をありがとうございました。
- ・ 講演で質疑応答の時間を設けていただけたこと、本当に嬉しいです。



「モヤっとすること、あるあるに見える化

～『ジェンダーギャップを考えるカルタ』で学ぼう～」

講師 末吉 洋文さん(帝塚山大学法学部 教授)

普段の生活の中で、何故だかわからないけどモヤっとすることがあったり、心地よい居場所が欲しいのに居心地悪く感じることもあるのは、無意識の思い込みやジェンダーからくるものかもしれないと考え、「ジェンダーギャップを考えるカルタ」を通して、学んでほしいという思いから実行委員が企画しました。

前半は、講師より現在の社会状況をもとに「ウェルビーイング」や心理的安全性の大切さをお話いただき、「ジェンダーギャップを考えるカルタ」を解説していただきました。後半は、グループワークで実際に新潟の方言を使って新潟版「ジェンダーギャップを考えるカルタ」を作成しました。

【今、社会が求めているもの】

最近、ビジネスの現場などでも注目されている「ウェルビーイング」とは、個人のみならず、個人を取り巻く「場(社会)」が持続的に良い状態であることを意味し、「ウェルビーイング」が経営に多くのメリットをもたらすと言われています。例えば、良いコミュニケーション環境となることで生産性が高くなり、また多様な働き方を実現できる企業であれば、優秀な人材の確保につながります。「ウェルビーイング」は、心理的安全性を確保するためにも重要です。

心理的安全性を確保するために、マイクロアグレッションを意識することも大切です。マイクロアグレッションとは、無意識の偏見や思い込み(アンコンシャス・バイアス)が言葉や態度に現れ、否定的なメッセージとなって伝わり意図せず、誰かを傷つけてしまうことです。「ジェンダー」の正確な知識を身に付けたいと意図せず、誰かを傷つけるかもしれません。

【日本のジェンダーギャップ指数から】

2024年の日本のジェンダーギャップ指数は146カ国中118位で主要7カ国(G7)では、依然として最下位となっています。特に女性管理職比率の低さは、世界的にみても低水準のままです。

無意識の偏見は完全になくなるものではない、全てを克服しようがないとも言われています。だからこそ、日々の学びが大切で、ジェンダーを意識していくことが重要となっています。

【参加者が作成した

新潟版「ジェンダーギャップを考えるカルタ」】

- ・しょったれを 指摘するのは ルッキズム?
- ・もしかあんにゃ 今は、次男・三男 貴重品
- ・のめしこき 靴下 自分で 片付けろ!
- ・おめがやれ 押し付けごめんだ 嫁役割
- ・しょしがらず キッチンに立つ いい男

【参加者の感想】

- ・「ウェルビーイング」や「心理的安全性」など、新しい知識を知ることができました。このカルタをダウンロードして、若者とやってみたいと思います。
- ・ジェンダーについて、全くわからない、全く知らなかったなので、知ることができました。ありがとうございました。
- ・4人ずつで話しやすかった。ワークシヨップ付きで先生の話も分かりやすくて良かった。
- ・ジェンダーを楽しみながら考え学ぶカルタの手法が知れた。
- ・お話がとても面白かったです。グループワークとカルタも良かったです。
- ・聴くだけではなく、参加型で楽しかった。
- ・カルタをつくるのがむずかしかったけれど、おもしろかった。自分の中のフマン、モヤモヤを言葉、俳句にするのは楽しいです。また思いついたら一人でやってみようと思った。
- ・わかりやすい、カルタで見える化が楽しく、時間を短く感じた。「ウェルビーイング」を考え、行動に!!
- ・参加型の分科会は楽しかったです。
- ・わかりやすい内容、実践的なセミナーでした。





「自分もまわりも大切に ～無意識の思い込みとジェンダーの話～」

講師 指田 祐美さん (NPO 扉 代表)

対象 新潟市立明鏡高等学校 午前部 3年生 (「総合的な探求の時間」の授業の一環として開催)

高校生にジェンダーに関心をもってもらう機会として、出前授業に伺いました。「男だから、女だから」という固定的な性別役割分担意識にとらわれず、自分らしく生きるために、「ジェンダーって何だろう？」をクイズ形式で考えました。その後、無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)の中のジェンダーバイアスについて、グループワークを交えて講師からお話しいただきました。



【ジェンダーバイアスとは？】

バイアスとは「歪んだ考え」のことで、約 200 種類あると言われています。例えば、「偉い人が言うのだから、間違いはないだろう」というのも、バイアスの一つです。

ジェンダーバイアスとは、

- ・男女の役割に固定的なイメージを持つこと
- ・そのために社会的な評価や扱いが差別的になることを言います。

例えば、「ピンクは女の子」など色や形のイメージや、「イクメン」「デジジョ」など言葉による固定観念、事務的な業務は女性、男性は営業などという職場での分担などがあります。他にも、男性は理系が得意で、女性は文系が得意、という能力の差があると決めつけてしまうことや、性的アイデンティティへの偏見もジェンダーバイアスです。

【無意識のうちに…】

目にするもの、耳にするものを日々シャワーのように浴びることで、意識しなくても自分の中に「こういうものなのかな」と思ってしまうことがあります。

SNS を含むメディアにも、ジェンダーバイアスが数多くあります。メディアに接する時は、「これは思い込み、偏見かな？」と考えながら見るようにしましょう。



【ジェンダーバイアスを感じた経験】

グループワークでは、ジェンダーバイアスに関して、実際に言われたことや聞いたことがある経験を出し合い、タブレット端末を使ってシェアしました。

経験談の中で多くシェアされたのは、家族に言われたことでした。次の 2 つに関することが多く挙げられました。

- ・見た目や服装
(女の子なんだから長い髪であるべき、男の子がアクセサリーをするのはおかしいと言われた等)
- ・固定的な性別役割分担意識
(男性は仕事、女性は家事ができるようになりなさいと言われた等)

【大切なこと】

ジェンダーバイアスを含む、無意識の思い込みへの対処法が 3 つあります。

- 1.気づこうとする
- 2.決めつけない
- 3.対話を大切に

今、この話がピンと来なくても、進学や就職で新しい環境になった時に、「あれ？おかしいな」と思ったら、今日の話思い出してもらえると嬉しいです。

自分らしくいることは時に難しいですが、「これは嫌だな、したくないな」というのは自分でわかると思います。自分の気持ちに正直でいることが大切です。

【生徒の感想】

・これまで、おかしいなと思ったことがあっても仕方がないと思っていましたが、これからは仕方がないで終わらせないようにしたいです。

・人それぞれの個性を尊重し、みんな平等に自由な選択ができる社会が生まれればいいと思います。

・無意識のうちにジェンダーバイアスが自分の中に生まれていることに気づいたし、日常の中で気づかぬうちに性差別を受けていることがあるというのがわかりました。

・知らないうちに人を傷つけていたかもしれないと思ったから、これからは発言に気をつけながらお話ししたいと思いました。

主催：放送大学心理臨床研修会・新潟	ワークショップ
<p align="center">コラージュで自分探しの旅に出かけませんか</p>	<p align="center">11/9 (土)</p>
<p align="center">講師：板倉恵一さん（放送大学心理臨床研修会・新潟代表、日本創作療法学会認定正クリエイティブ・セラピスト、認定心理士）</p>	
<p>11月9日放送大学心理臨床研修会・新潟（全国組織）がアルザフォーラムに参加しました。</p> <p>当初私の携帯電話に、一般の方でも参加できるのかなど何件か問い合わせがあり、予約していただきました。前日に都合がつかなく取りやめられた方もいましたが、楽しい勉強会になりました。</p> <p>問い合わせの中でよく聞かれるのですが「貴団体の行うコラージュは、薬を使わず何故心の悩みに有効か」を聞かれます。一般のカウンセリングは「言葉」と「言葉」によって心をほぐしていくのですが、我々の行うコラージュは、クライアント（患者、ここでは参加者と呼ばせていただきます）が、先ずA3用紙くらいの17色の台紙を選び、雑誌、チラシ、カタログ、新聞などの中から気になる「絵」「言葉」を切り抜いて台紙に貼るだけですが、その作品の中に今現在の自分が表現されると言います。それを我々学会認定資格者が、参加者（制作された方）と作品を見ながら対話をし、今の自分を「絵」として「形」として見つめていただくもので、本人も気が付かない隠れた心の隙間の部分を発見してもらうものです。</p> <p>以上を踏まえて当日の参加者の方といろいろなお話をしながらコラージュを作りました。</p> <p>いろいろな話の中に、悩みのある方は話の中で言葉として、或いは態度に表れるものです。それらを聞きながら、見ながら作品作りを行いました。終了の時には皆さんの顔が少し晴れやかに見えました。</p>	



主催：NPO法人 女のスペース・にいがた	ワークショップ
<p align="center">離婚後の共同親権「子どもにとっての最善の利益」とは？</p>	<p align="center">11/9 (土)</p>
<p align="center">講師：打越さく良さん（弁護士・参議院議員）</p>	
<p>2024年5月に改正民法が成立し、2年以内に離婚後、単独親権か共同親権かを選択することになりました。</p> <p>共同親権は子どもの最善の利益になるのか、虐待やDV被害者への権利の侵害が継続されないか等々、親権に関する民法改正について学び、課題と対応を考えることを目的にしました。</p> <p>講師の打越さんから、法制審議会や国会の論議を踏まえ法律の条文を引いて詳しく説明していただきました。離婚当事者が適切に単独親権か共同親権かを選択できるか、家庭裁判所は適切に親権者を指定できるかが問題であり、子どもの意見の尊重が法に明記されていないとの指摘もありました。</p> <p>グループワークでは、共同親権の問題点や課題、共同親権への不安など活発な話し合いがなされました。全体を通して「民法改正・共同親権導入の理解は難しい」と思いました。</p> <p>「共同親権」はよさそうに聞こえます。しかし、どれだけの離婚した母と父が子どものために協力し対等に話し合いができるのでしょうか。</p> <p>また、離婚後も共同親権になると誤解している人も多いことが分かりました。</p> <p>講師は多数を占める協議離婚の制度も危惧されていました。理解不十分のまま共同親権を選択してしまったら、子どもに甚大な不利益を与えかねません。</p> <p>国がガイドラインを作成中ですが、子どもの最善の利益を盛り込み早期に作成すること、そして共同親権導入に関する民法改正とガイドラインの周知を図ってほしいと切に望みます。</p>	



主催：にいがた女性会議	ワークショップ
NJ カフェ（にいがた女性会議カフェ）	11/9 （土）

にいがた女性会議として、ワークショップを出展しました。各部会が主催するワークショップは過去にも今回も開催されています。開催にあたっての狙いは、①個人会員が100名を超える大所帯の中で部会を越えた交流機会を作る、②新たに団体を知ってもらうこの2点でした。当日は団体（加えて各部会）紹介・困難な問題を抱える女性への支援に関する法律の読み合わせを2回ずつ予定に組み込んで、出入り自由のカフェ形式でお待ちすることにしました。

会場では、初めてのゲストを囲んで、新旧の会員が足を運んでくれました。時間の経過とともにワークショップの終盤には一つの円になり、会員・非会員に限らず簡単な自己紹介をして意見交換ができました。各種（新潟市担当所管課長・男女共同参画課・市長・女性市議）懇談会では、なかなか出席者同士がフリートークをする間がとれないままでした。それらとは異なり、所属年数を越えて直接話せることは珍しく、新鮮さとうれしさが混ざっていたのだと思います。ゲストが見ている昨今の社会情勢や新潟市の状況を直接聞かせてもらったことも対面の良さが表れていました。

新法の読み合わせは、改めて政府を挙げてどのような方針であるのかを確認できました。アルザフォーラムの場で音読をする機会を持ったこと、それを基にディスカッションができたことも有意義でした。なかなか個人では成し得ないので、全ての関係者の皆様感謝を申し上げます。当日会場で起きたグループ・ダイナミクス（集団力学：参加者全体での相乗効果）を力にして今後も団体としていいバトンを継いでいきたいものです。



主催：新潟市消費者協会	ワークショップ
男性も女性も若々しく・はつらつと生きる	11/10 （日）

講師：塚野真一さん（フィットネス・スポーツインストラクター、元プロキックボクサー）

11月10日（日）午前10時より万代市民会館においてアルザフォーラム2024ワークショップを開催いたしました。「男性も女性も若々しく・はつらつと生きる」と題して元プロキックボクサーとして活躍された塚野真一さんより講演と身体を温めるレクチャーを受けました。超高齢化社会となってきた現在、健康寿命の延伸こそ重要です。労働年齢も長くなってきています。60歳定年など遠い昔の話になりつつあります。年齢を重ねて運動量が少なくなり、血流が悪くなり運動不足な人が多いと思います。短い時間でしたが、講師の指導の下で簡単にできる体操を行いました。運動ができなくても手でさすったり、たたいたり、ぐるぐる回したりして血流を良くし身体を温めることで免疫力を高められるそうです。2人・3人のグループでじゃんけんゲームを行い、まさに頭と身体連携する運動で楽しみました。参加者同士のふれあいや会話も有意義でした。長く健康を維持するため、日頃から自身の体のケアが大切であると思います。超高齢化社会の今、健康に暮らせるすべは私たち自身が健康維持に努めることです。





主催：NPO 法人 健康生きがづくり新潟	ワークショップ
笑いヨガ無料体験会	11/10 (日)
講師：当団体会員 笑いヨガリーダー3名	
<p>当団体では中高年齢者の女性男性を問わず、健康づくり生きがづくりを広く市民の皆さん知っていただく活動を、勉強会や公開セミナー等を行っています。健康生きがづくりアドバイザー資格取得者を主に団体活動を新潟市で行ってきて、26年になります。</p> <p>少子高齢化の時代を迎え、会員も70歳代から90歳代での構成となり、ややパワー不足が感じられますが、上部団体の一般財団法人健康・生きがい開発財団ではこの時代を迎えて、100歳大学（現役を終え、後半人生を40年ととらえ、残りの40年を有意義な自分らしい生き方を学ぶ場の提供）の義務教育化を提案し、活動を進めています。又健康寿命の延伸をテーマに、東京大学高齢社会研究機構の飯島勝也機構長とタイアップして「フレイルチェック活動」を広くPRしています。</p> <p>新潟市でも令和元年度から「フレイルチェック活動」が始まり、令和6年度には市の重点施策と位置づけて全8区で実施され、全国約100市区町村で実施、更に拡大中です。</p> <p>それらの状況を踏まえて、この度のアルザフォーラム2024ワークショップでは、笑いヨガを広く知ってもらい笑いの効用を健康づくり・生きがづくりに役立ててもらいたく開催しました。当日は日曜の午前と午後の二回開催として沢山の参加を目指し無料体験会としました。</p> <p>参加者からは「楽しく学べた」「大きな声で笑うと体に良いことが分かった」等アンケートでした。実施出来て大変良かったと感じています。開催の場を提供いただきまして、有難う御座いました。</p>	



主催：劇団あかつき	ワークショップ
おたがいさまの支え合い劇	11/10 (日)
<p>市民が安心して生涯を過ごすことができる地域を作るためには市民の支え合いが必要です。</p> <p>高齢化社会に直面している現在において、核家族化が進み、又、一人暮らしが多く、地域との交流が薄れてきております。そこで、人と繋がりをもってもらうにはどうしたら良いかを考え「地域に居場所（地域の茶の間やサロンなど）を作って、皆で集い、困っていることを相談したり、支え合ったりしませんか」と演劇のテーマにしました。</p> <p>劇には、認知症予防、介護の困りごと、特殊詐欺撃退を盛り込みました。特に特殊詐欺事件は年々増加し高齢者が狙われる事が多いので、地域の茶の間やサロンで情報、対処法を共有して話し合いましょうと訴えました。</p> <p>*観客アンケートでは、「自分だけは詐欺に騙されないと思わないで、常に危機感を持つことにします」「高齢化社会で地域の助け合いは大切な事と思います」「今、話題になっている身近な問題をユーモラスに取り上げてほしい、とても分かり易かった」「只今介護中、父の好きなチャンキおけさで泣けた」「認知症の人を地域で見守る事はとても良いと思う」「地域の人々が色々なことを支え合う活動を始めるのは良いことだと思う」「出演者は視覚障がい者や80、70代の高齢者が多く出演されて頑張っていて感動し、励まされました」「特殊詐欺の啓発になって良かったです」などの声が寄せられました。</p> <p>今後も、この支え合い劇、詐欺撃退劇、防災劇を出前演劇として地域に出向き啓発活動します。</p>	



主催：フードバンクにいがた	ワークショップ
生活革命の時代を生きた新潟の女性たち ～彼女たちの証言から～	11/10 (日)
講師：高橋忠好さん（女性史研究家・行政書士）	
<p>フードバンクにいがたでは生活困窮者を対象として主に寄付された食料の配布を行っている。その対象者は女性が多いのが現状である。活動の一環として定期的に母子連加入の生活困窮者に食料の配布を行っているが、その比重は活動の中でも相当の位置を占めている。</p> <p>女性、特に母子家庭に生活困窮者が多いのは広く知られた事実であるが、その理由等については必ずしも理解がされているわけではない。そこでフードバンクにいがたとしては啓発活動の一環として新潟の女性の労働や生活に関する歴史を学べる講座を開催し、女性の困窮の根源について理解を深めてもらいたいと考え昨年以來計3回の講座の開催を計画したところである。講座の趣旨は有意義と考えているが、参加者の少ないことが当面の課題であり、講座の周知の方法の変更や他団体とのコラボなども検討したいと思っている。今年の「生活革命の時代を生きた新潟の女性たち～彼女たちの証言から」も今までにない斬新なテーマであったと考えているが、参加者は多くなかった。生活革命の時代とは、昭和30年からの高度経済成長期とその後の安定経済成長期を言うものであったが、現在の女性の困難もこの時代の女性に実現した生活の在り方に根差していると思われる。</p> <p>いわば専業主婦が主流となったこの時代に女性の逞しい生活力が失われ、それまでと別の形で男性に従属することとなったことも現在の困難の理由の一つであったと考えるのがこの講座の趣旨でもあった。ともかくも来年のフォーラムにもめげずに参加したいと考えているので、現在の女性の関心事がどこにあるのか分析し、再挑戦したい。</p>	
	



主催：NPO 法人 日本ファシリテーション協会新潟サロン	ワークショップ
初心者でも安心！会議の種類に応じたファシリテーションを学ぼう	11/10 (日)
講師：前田卓也さん（大手 IT 会社 金融システム本部業務管理室長）	
<p>アイデアを出す会議、週次報告会議、決定する会議など。会議には様々な種類があり、その会議によって、ファシリテーションのやり方も違います。ただ、全てに通じているのは、安心・安全な温かい話し合いの場をファシリテーターは、そのスキルとマインドによって、参加者とともにつくりあげていくということです。</p> <p>今回は、全国で活動している講師とともに、会議の種類を確認し、その会議にあったファシリテーションを共に学びたいという想いで企画しました。</p> <p>講師の前田卓也さんは、社内で管理職全員を対象にしたファシリテーション研修に感銘を受け、2009年よりファシリテーションに関わりました。現場で日々ファシリテーションを実践しており、社内外の研修講師として定評があります。</p> <p>冒頭、講師からファシリテーションや会議の三要素、ファシリテーションが上手になるための情報提供がありました。次に、自分が行っている会議を書き出し、同じテーマの人達とグループを作りました。グループで掘り下げる会議の具体像づくりを行い、実現可能かどうかという観点で対話を行いました。最後に、会議の種類に応じたファシリテーションのポイントを詠った短歌づくりで締めくくりました。参加者からは「ファシリテーションを深く知ることができた。」「自分のアイデアの効果や、「できる？」と段階的に深められたこと、会議の種類を知れたことで満足。」「仕事に活かせることまで落とし込めて考えられた。」と高い満足度でした。反省点は、時間中に備品が足りなくなり、途中で買い物に走ったことです。</p>	
	


主催：特定非営利活動法人 新潟キャリアコンサルタント協会	ワークショップ
「人生会議」のゲームを楽しみませんか？	11/10 (日)
<p>「キャリア＝人生そのもの」と捉える「ライフキャリア」という考え方がある。</p> <p>自分自身が望む最期を考えることのサポートは、誰もがよりよく生きるためのライフキャリアを実現するものと考え、キャリアコンサルタントとして、この度「人生会議」ゲームを企画した。</p> <p>重いテーマになりがちな「人生会議」だからこそ、ゲーム性を全面に出し、楽しく思索が深められることを強調し、参加しやすいチラシ作成につとめた。昨年も実施し、好評だったことから、昨年度参加者の声として、チラシに掲載し、HPやFBなどの媒体も通して周知を行った。</p> <p>当日は、協会員以外にも、3名の一般参加者にご参加いただいた。その他、当日欠席にはなったが、2～3名の一般参加者からもお申し込みを頂いた。</p> <p>「人生会議」のゲームを2グループに分けて実施した後、その方が大切にしたい価値観・最期について聞かせて頂いた。</p> <p>参加者の方からは、「普段親しい人にも話さない内容を共有出来て良かった」「終活を考えるとやるべきことがたくさんあり、暗い気持ちになりがちだったが、もっと楽しみながら過ごしていきたい」などの前向きな振り返りが聞かれた。</p> <p>また、終活の取組みについて、他専門家の方々と連携をとりながら、キャリアコンサルタントとして支援をしていけることがあると改めて感じた。</p>	



主催：わいわい夢工房	ワークショップ
防災カフェ in アルザ ～被災地の現状とこれから～	11/12 (火)
講師：佐竹直子さん（「チーム中越」代表・子育て防災支援士）	
<p>2024年の元旦に起きた能登半島地震により、今まで他人事だった「防災」について、自分のこととして考えるようになった方も多いと思われる。</p> <p>発災から11カ月経ちその意識が薄れないうちに、チーム中越の代表として現地に赴き、20年前の中越地震の教訓を生かし被災者に寄り添った支援を続けている講師を招き、実際に見てきたことや感じたことを聞いてみよう企画した。</p> <p>車座になり顔を見ながらの自己紹介で、それぞれやっていることと参加した動機を話し、最後に講師が自分自身のこれまでのことから現在に至るまでを話し場が和んだところで本題に入っていった。</p> <p>発災直後から現在までの数々の写真は、報道では取り上げられない物がほとんどで、1年近く経ってもこの中で暮らしている方々のことを思うと言葉も出ないほど胸が押しつぶされた。</p> <p>時系列を追いながらの解説の中には多くのキーワードがあり、知らない同士が生活を共にする避難所でまずやることは、手や体を動かしたり食べたりしながら声を出し、人の話を聞く場を作ることで緩やかな繋がりが生まれ自助力を高める、そのサポートをするのが自分たちの役割とのこと。</p> <p>特に印象に残ったのは、「避難者にはそれぞれ力がある、年齢性別問わずお客様扱いしない」「日頃の個人のコミュニケーション力が、有事に地域力や市民力に繋がる」「人を助けることでやり甲斐を感じるので、おせっかい精神が大事」「閉塞している人が孤立しないよう、反応が無くても時間を見ては声をかけ続ける」</p> <p>今回福祉とコミュニケーションを学ぶ学生4人の参加があり、それぞれの進路や人生に役立つ貴重な機会になったとの言葉に、こちらが希望をいただいた。</p>	



主催：にいがた女性会議 介護・自立部会	ワークショップ
「つなぐ」～支え合い誰もが安心して暮らせる村～	11/12 (火)
講師：平田さよさん、佐々木尚子さん、佐藤恵子さん	
<p>5月の介護・自立部会に部会員の関心が強い関川村の充実した介護サービスや状況、誰もが役割を持てる地域共生社会を学ぶため、関川村から社会福祉に携わっている御三方をお招きしてワークショップを開催した。20人が集い、質問の時間を多く取り有意義な部会が開催でき、参加者のさわやかな笑顔で締めくくった。そのご縁もあり、関川村の平田さん・佐々木さん・佐藤さんの三人娘さんから今回、11月12日にアルザフォーラムワークショップでご講演をいただいた。住み慣れた地域で、人生の最後まで自分らしく暮らすことを考えたときに、関川村で足りないものは「居場所」だった。地域共生社会を目指して、連携・運動から生まれたもの、赤ちゃんから高齢者まですべての方を支える地域共生居場所、有志による劇団、多職種が集まり、つながる会、誰もが集える食堂。住民として何ができるか考える。できることをやる、思いを伝える、つながり合う、つながり続けて行く。あらためて、自分の住んでいる町（新潟市）のことを考えるきっかけになった。今年、関川村政史上2人目の女性議員が誕生した。女性の視点から更なる福祉政策の充実を期待している。</p>	
	


主催：にいがた女性会議 男女平等教育部会	ワークショップ
ジェンダーの視点から見た性の多様性	11/12 (火)
講師：中野享香さん（新潟大学経営戦略本部ダイバーシティ推進センター 准教授）	
<p>2024年2月4日付「市報にいがた」でも『多様な「性」を尊重しよう』という特集が掲載されました。すべての人が生きやすい社会となるよう私達の部会も、市報に掲載された方々と、毎年シリーズで勉強会を開催してきました。</p> <p>今回は、ジェンダーから見た性の多様性を考えてみる、との視点で講演をしていただきました。講師は、SOGI（ソジ）について 心の性は、単なる「嗜好」や「志向」ではなく、「性的指向」、「性自認」でマイノリティだけでなく、全ての人にそれぞれのSOGIがあり、全ての人に適用できる言葉であるとお話され、心はそれほど単純でないことを学びました。</p> <p>また、同性愛が趣味・嗜好、疾患でもなく、生まれ持った性質である事、遺伝によるものではなく野生動物にも同性愛行動が見られるとの事、性同一性障害は「性別不合」、WHOが定める国際疾病分類では「性同一性障害」「性転換症」等のカテゴリーや疾患名は廃止されているとの事、日本は声を上げにくい社会である事、などについてご講義いただきました。すべての人は自分のセクシャリティを大切に育む権利を持っていることを強く訴えておられました。</p> <p>参加者が少人数だったため、全員が発言する時間もあり、充実したセミナーとなりました。</p>	
	


主催：新潟県カーリンコン協会	ワークショップ
<p align="center">カーリンコンの楽しさが あなたを健康にします！</p>	<p align="center">11/14 (木)</p>
講師：新潟県カーリンコン協会 会員	
<p>新潟県カーリンコン協会がアルザフォーラムに参加するのは14回目になりました。カーリンコンのゲームは、赤・緑チームそれぞれが6枚のディスクを交互に投げ合い、どちらがポイント(マト)に近づいているかを競う簡単なゲームです。</p> <p>初めての人でもすぐに覚えられて、幼児から高齢者や障がいのある方まで幅広い交流が可能です。知らないうちに身体を動かして、フレイル(心身の虚弱)予防や仲間づくりにも最適なゲームです。生涯にわたる健康づくりの支援として、この楽しさを体験してもらうために企画しました。</p> <p>来ていただいた方々には、ゲームのやり方を説明し、ディスクの投げ方を練習して、その後試合形式で対戦しました。参加者はすぐにコツをつかみ、一投一投のディスクの行方に歓声を上げていました。自分の投げたディスクがポイントの近くに行った時や相手のディスクを弾き飛ばした時には、チームのメンバーから歓声と拍手が起きて笑顔で喜んでいました。</p> <p>「初めてでしたが楽しかった。奥が深く逆転につぐ逆転だった」「笑ったり、悔しく思ったり、無心になれる時間。とても楽しい時を過ごせました」等、ありがたい感想をいただきました。</p> <p>一方、「参加者が少ない。もっと参加を促して！」という感想もいただきました。有料駐車場に止めざるを得ないことが参加者の伸び悩みにつながっているようにも思いますので、改善いただけるとありがたいです。</p> <p>これからもカーリンコンを通じて、楽しさと笑顔を広めていきます。</p>	



主催：NPO 法人 ウィメンズサポートセンターにいがた	ワークショップ
<p align="center">家族が変わる！？</p> <p align="center">～女性や家族に関する法律や制度の改正点をめぐって～</p>	<p align="center">11/16 (土)</p>
講師：大澤理尋さん(弁護士・社会福祉士・新潟県立大学非常勤講師・敬和学園大学非常勤講師)	
<p>新型コロナ後、女性や子どもの貧困や自死等が増え、DVや虐待等の問題は益々深刻化し、若年層から高齢者、障がいのある方々等からの相談も増加しています。</p> <p>しかし、現に不安を抱えている当事者の方々からは、学習会の席で発言するのは難しいという声があり、今回は、事前にご意見ご希望等を募集しました。</p> <p>弁護士の澤理尋さんから憲法を踏まえて「改正DV防止法」「共同親権」「選択的夫婦別姓」「女性支援法」等、緊急の課題をお話していただき、後半は「非暴力トレーニング」の手法を用いて話し合いました。</p> <p>話し合いでは、DV防止法でなく禁止法にすべき、養育費も払っていない元夫が共同親権を盾に子どもを取り返しに来るのではないかと心配、DVを受けても養育費が低すぎて離婚に踏み切れない、何十年も夫婦別姓が決まらないのは男社会だから、相談員等の官製ワーキングプアを失くしてほしい等々たくさん問題点が出ました。</p> <p>また、今後もこのような勉強会を行うと共に関係機関等に働き掛けていって欲しい等の要望もありました。</p> <p>私達「ウィメンズサポートセンターにいがた」は、DVや虐待等に悩む女性や子ども等のための相談・支援活動を専門的に行っています。これからも真摯に取り組み、DVや虐待のない、社会的弱者が安心・安全に暮らせる社会をめざし共に活動して行きたいと思えます。</p>	



主催：カトレア会	ワークショップ
講演会・座談会 「LGBTQ+を知ろう・語ろう・つながろう」	11/17 (日)
講師：あやかさん（LGBTQ こころテにいがた 代表） 瀧澤ミチ子さん（NPO 法人 子どものオンブズにいがた 副代表理事）	
<p>LGBTQの当事者であるあやかさんを講師にお招きして、自身のセクシュアリティや「LGBTQこころテにいがた」の活動、LGBTQの基礎知識、パートナーシップ制度などについてお話をお聞きし、その後、参加者とディスカッションを行いました。</p> <p>今の社会では「多様性」や「共生」という言葉をよく見聞きしますが、実際の生活の場では差別や偏見も多く、ありのままの自分で生きていくことがとても難しいです。例えば「性」と聞くと「男性」「女性」の2つの枠で判断しがちですが、これらの枠に入らない人もいます。枠にしばられたくない人もいます。異性愛者や性的少数者だけでなく、全ての人々がもっている性のあり方をソジ（=SOGI）と言います。10人いたら10通りの「性」があり「生き方」があります。大切なことは、私たちがこれまで生きてきた中で形成されてきた物の見方やゆがんだ認知（=アンコンシャスバイアス、無意識の思い込み）などに気づいて、自分事として正しい知識を学んでいくことです。多くの人々がLGBTQ+を理解し、支援をするアライ（=ALLY）になることで、自分たちが住む地域を変えることが可能となるはずで。</p> <p>最後に、先日テレビで放映された同性愛を生きる方たちの幸せな結婚式の映像を見ながら、「誰もが持っているその人らしさが認められ、尊重される社会をつくるために自分ができることを実践しよう」という想いをさらに強くしました。</p> <p>あやかさん、瀧澤ミチ子さんと参加者の皆様と、貴重で有意義な時間を共有することができましたことに感謝いたします。</p>	
	

主催：イキイキ健康ふれ愛クラブ元気塾	ワークショップ
「親の想い、子にどう伝える？」	11/17 (日)
講師：高橋征一さん（唄声サロン講師）	
<p>今年のテーマを『親の想い、子にどう伝える？』としたのは、ある会員が定例会の時に、「子ども達が皆家を出て、夫々個別の家庭（家）を持つようになって、このままで自分が死んで行ったら、この家とか墓とか、わが〇〇家はどうかっちゃんだろうか？」と言う発言からだ。5月頃、このテーマが決まってから、毎月の定例会で、会員発表の他にこのテーマについての話し合いを重ねて来た。他の会員の意見を聞くことで当初の自分の“想い”が少しずつ変化（深化）を増していくようであった。アルザフォーラム当日には各会員のそれまでの想いを200～500字にまとめた原稿を持ち寄り、1人3～5分間で発表し合った。一般参加の方も、司会者の主旨説明と当会員の意見発表を聞いた上で最後に発表してもらった。各々の意見要旨は「さんあい」（月刊広報紙）の12月号に掲載することになっている。</p> <p>印象に残った点は、・繋がりのある人々の命日を整理し、法事は親戚の人が集まれる大切な機会だ。・自分としての責任を感じる。文書として残しておきたい。・上から目線では言えない。子ども達は親を心配している。・地域包括支援センター等市の制度、機関を調べておく。・「子ども達へ」と手紙形式で自分が歩んできた道・気にかかっている事（家・墓・寺・家系図）を書き伝えたい、などであった。</p> <p>チラシも以下のように工夫し、集客に努めた。チラシの構成は「23年続いているグループです」を表題とし、横文字に『絆』を掲げ、次の4つで構成した。①家の歴史を伝える ②親戚との交流を大切に ③地域との繋がりを持つ ④健康に留意する。</p>	
	

主催：にいがた女性会議 子どもの人権・子育て支援部会	ワークショップ
<p style="text-align: center;">どうする？子どもの人権侵害 –ヤングケアラーの実態調査から–</p>	<p style="text-align: center;">11/17 (日)</p>
<p>講師：吉岡直さん(新潟市こども政策課主幹)・田中栄司さん(新潟市こども家庭課係長)</p>	
<p>いじめ・虐待・不登校・自殺や性被害など、子どもを巡る状況は、厳しくなっている。新潟市では、2022年超党派の議員により「子ども条例」が制定された。特に母子家庭を中心に相対的な貧困状態にあること。17人に1人が、「ヤングケアラー」と言われる本来大人や社会が担うとされる家事や家族の世話などを日常的にやっており、勉強や自分のやりたいことがやれないという問題が顕在化している。新潟市は条例に基づく「子どもの権利推進計画」を策定し、イベントでの周知・中学生による意見交換会等でPRしている。今回の学習会も、より多くの大人たちに実情や救済機関等を知っていただき、ともに子どもが一人の人間として尊重される社会を作るとともに、大人の人権について考えてもらいたいと企画した。特に学生や若者を中心に呼びかけたが、なかなか思うようにいかず、結果的には個々に電話・メール等で呼びかけ、大人中心になった。条例を策定した新潟市会議員の何人かが参加した。二人の講師の話は、パワーポイントと資料で説明していただき、会場との意見交換を1時間近く取り、活発に質問・意見交換が行われた。アンケートでは、●ヤングケアラーのことを学習する良い機会となった。●まだまだ子どものサポートが少ない。子どもを取り巻く環境について活動している団体の話を聞いてよかったが、困っている子どもを支援する制度や取組の拡大が必要だと思う。相談等を利用できずに苦しんでいる子どもたちが多い。介護は家族が見るものだという意識や現状がある。●二人の講師の話は分かりやすかったし、意見交換もいろいろな質問・意見が活発にできてよかった。●市民と行政の認識を共有する場として、現状の到達点と課題を知ることができた。等とても勇気づけられる内容だった。26人ほどの参加者との意見交換を通して、行政と市民が協働して取り組みをしていく必要性を感じたワークショップとなった。</p>	



主催：NPO 法人 女のスペース・にいがた

上映会『Team その子』 & 「解離あるある」トーク

11/4
(月・振)

映画監修：NPO 法人レジリエンス 監督・脚本・編集：友塚結仁さん

トーク：友塚結仁さん（脚本・監督）・中島幸子さん（NPO 法人レジリエンス代表）

「解離性同一性障害(DID)」(多重人格症)は、主に子どもの頃の虐待経験(特に性虐待)が原因で、この障がいを持つ人は女性が多いとされている。発症率は人口の1～3%(外国専門機関の統計)、女性支援活動や仕事の場で当事者と関わり、対応に困惑しているケースは少なくないと思われる。そこでDIDへの理解を広めることで当事者支援に繋がられるよう、アルザフォーラム協賛事業として開催させていただいた。

広報は新潟市内の福祉、医療、教育等の関係機関を中心に行った。関係者向けHPに掲載して下さる機関や学生に案内メールを送信して下さる大学もありチラシ大量配布の時代でないと感じさせられた。当日、『Team その子』上映後に友塚さんと中島さんのトークを行った。中島さんはDVや虐待、性暴力等によるトラウマ理解を深める講演等を各地で行い、当事者でもある。映画でDID症状が具体的に感じられ、トークと併せDIDへの理解を深められる構成となっている。

参加者85名、アンケート提出65名。熱意あふれる感想をいただいたが、次の2点を参加者の多くと共有できたように思う。今後は関係者同士の連携と時代に合わせ広報を課題としたい。

○ 「解離は精神疾患であると同時にサバイバルするための力でもある。この視点が欠けると解離はなくななければならない症状とみなされてしまう。(『精神医学』2024.8掲載の中島さん小論文より抜粋)

○ まず目指すのは人格の統合でなく、人格同士が連携し合うチームのようにするということ。



主催：劇団 blue ジーンズ

女たちのパイレーツオブ日本海2
～大海原へ！闘う島の女たちと共に～

11/17
(日)

2007年から活動を開始した女性だけの劇団「劇団blueジーンズ」は身近にある問題をテーマに公演を続けて今年で18年目を迎えました。

今回は、昨年好評だったパイレーツ第2弾として詐欺をテーマに考えました。

沖縄では、今年6月25日米兵の性暴力事件と情報隠蔽に抗議の声が上がりました。

「県民は何も知らない、だまされている」まるで国による詐欺ではないかと・・・

なぜ、多くの女性が暴力で傷つけられ命を奪われてしまうのか、この社会の現実にフォーカスしました。

「暴力に立ち向かう必要はない。つながること、逃げ切ること、生き抜くことが暴力支配に対する積極的な抵抗となる。」と。闘うことより、つながり合って生き抜いていくことこそ、暴力防止への積極的な働きかけになる。という言葉を開演動画をスタートさせ始めました。当日は、たくさんの方々から足を運んでいただきました。心より御礼申し上げます。

アンケートより抜粋

・この社会で何が起きているか、ちゃんと見なければいけないと、あらためて思いました。(60代)

・いろいろ気持ちが落ち込んでいましたが、パワーをもらえました。(40代)

・女パイレーツ カッコいい！！テーマも素晴らしい！全国区でやってほしい。もっとたくさんの人に観てもらいたいと思いました。(60代)

・とにかく感動で生きる元気をいただきました。涙、涙で楽しいお芝居です。もっと早く劇団さんを知りたかった。(70代)



DVD 上映会 (会場：万代市民会館 6 階多目的ホール)

11月9日(土) 10:00~11:50
『ぼけますから、よろしくお願ひします
～おかえり お母さん～』
11月15日(金) 14:00~15:45
『燃えあがる女性記者たち』

パネル展示「パンジー劇場」

3.11 東日本大震災のときの女性たちのエピソードや気づいたことなど、分かりやすい 4 コマ漫画で表現したパネルを展示しました。

(パネル提供：(公財) せんだい男女共同参画財団)



保育室

アルザにいがた保育室で、子どもたちの保育を担当しました。私たち保育グループ秋桜・新潟市登録保育者は、いつも「保育室は子どもたちにとっても学びの場である」と心掛け保育をしています。

フォーラムにおいても、いつもとかわりなく保育にあたらせていただきました。

新潟市行政相談委員協議会パネル展示

国の行政等に関する相談の流れ・仕組みなどをわかりやすいパネルで展示をし、ポケットティッシュの配布を行いました。

また、11月14日(木)には、女性の人権に関する無料相談会も行いました。



新潟人権擁護委員協議会パネル展示

アルザフォーラム期間と同時期に実施されている「女性の人権ホットライン強化週間」の広報活動かねて、人権擁護委員の活動をお知らせする展示を行いました。

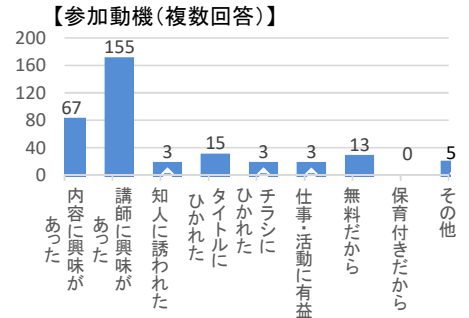
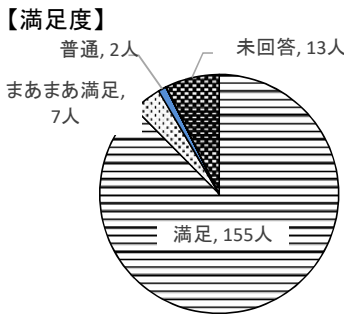
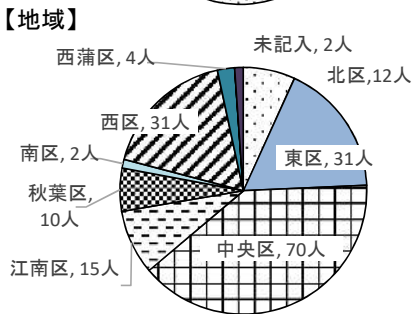
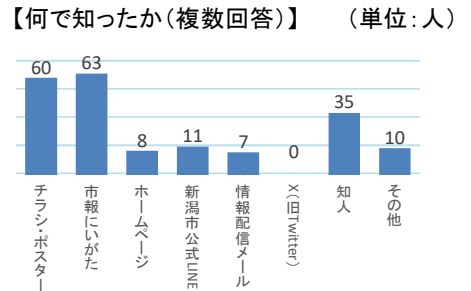
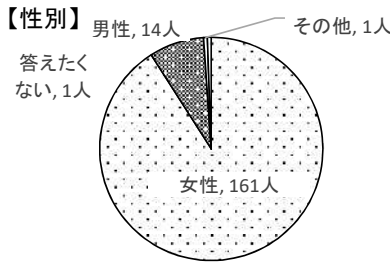
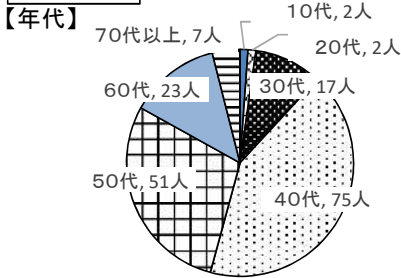


アルザフォーラム 2024 参加者数のまとめ

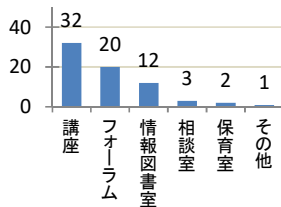
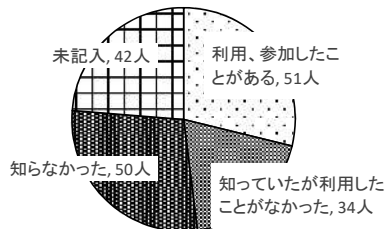
催し物	参加者	スタッフ	保育室	合計
基調講演	247	20	10	277
分科会	22	4	0	26
学校連携事業	63	7	-	70
DVD 上映会 (2 作品)	221	7	3	231
ワークショップ (17 企画)	201	91	3	295
協賛事業 (2 企画)	223	27	-	250
計	977	156	16	1,149

アンケート結果

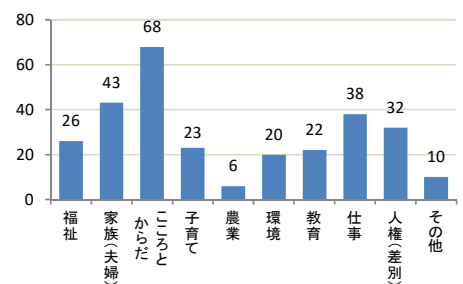
基調講演 (参加者247人、アンケート回答者177人)



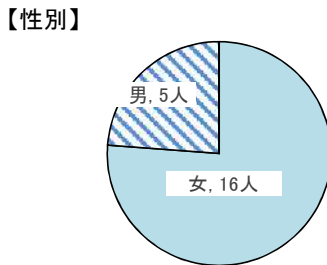
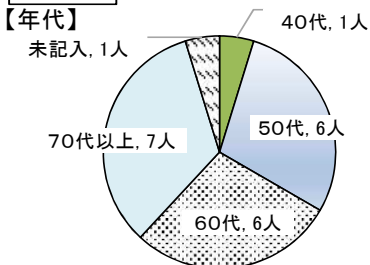
【「アルザにいがた」を知っていたか? 利用したことはあったか?】
「利用あり」の内訳(複数回答)



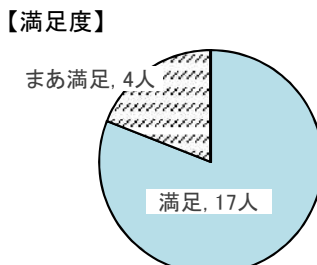
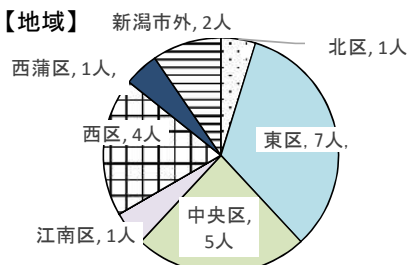
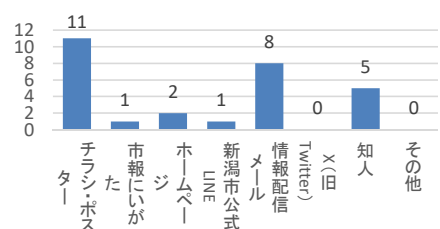
【次回取り上げてほしいジャンル(複数回答)】



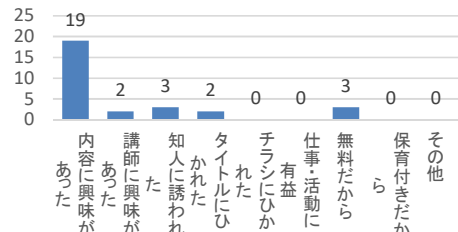
分科会 (参加者22人、アンケート回答者21人)



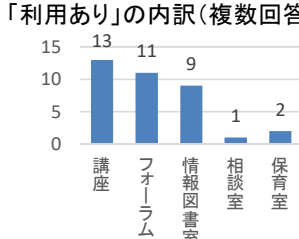
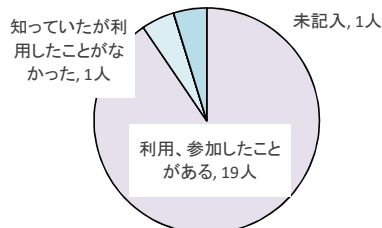
【何で知ったか(複数回答)】



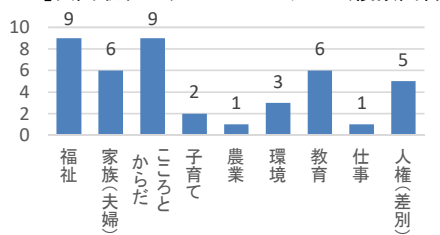
【参加動機(複数回答)】



【「アルザにいがた」を知っていたか? 利用したことはあったか?】
「利用あり」の内訳(複数回答)

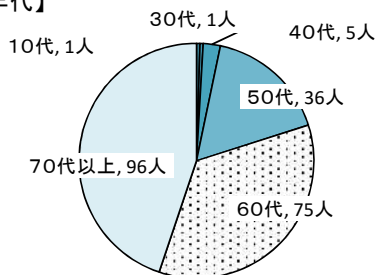


【次回取り上げてほしいジャンル(複数回答)】

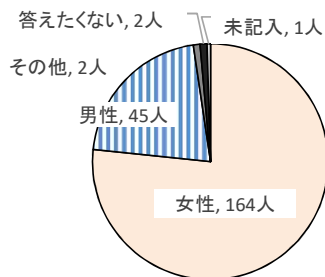


DVD上映会 (2作品合計) (参加者221人、アンケート回答者214人)

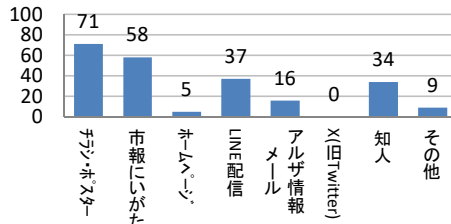
【年代】



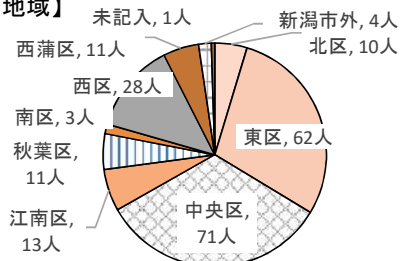
【性別】



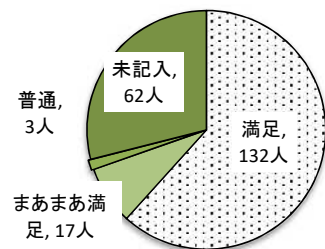
【何で知ったか (複数回答)】



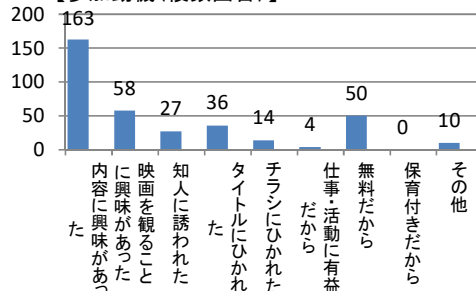
【地域】



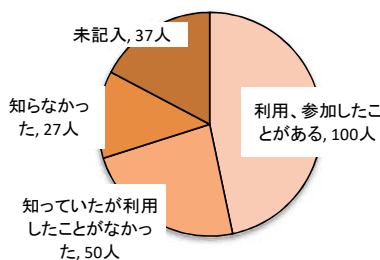
【満足度】



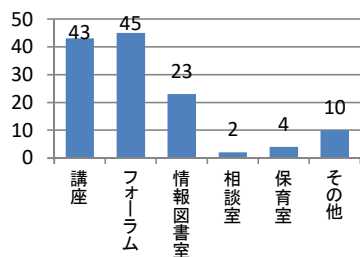
【参加動機 (複数回答)】



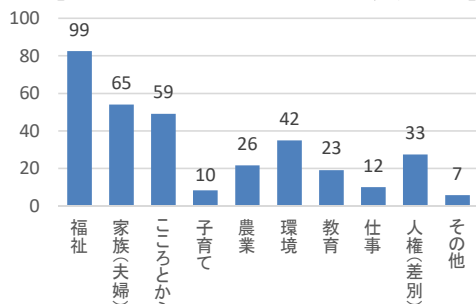
【「アルザにいがた」を知っていたか？ 利用したことはあったか？】



「利用あり」の内訳 (複数回答)

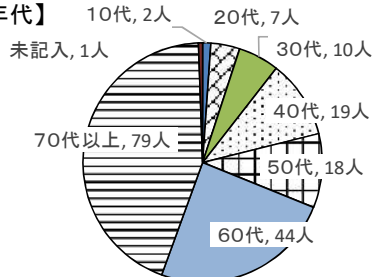


【次回取り上げてほしいジャンル (複数回答)】

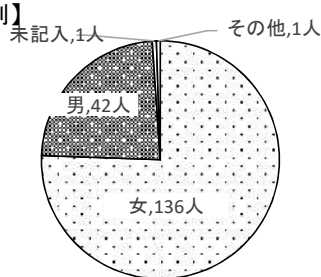


ワークショップ (参加者201人、アンケート回答者180人)

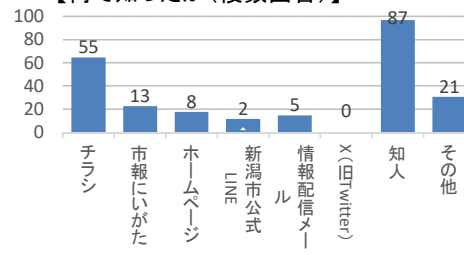
【年代】



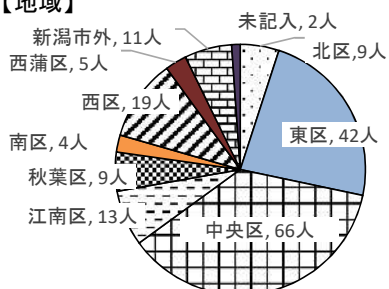
【性別】



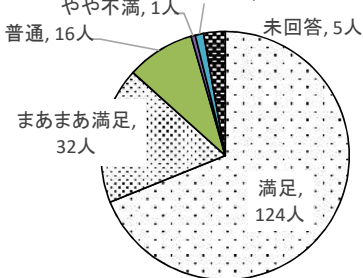
【何で知ったか (複数回答)】



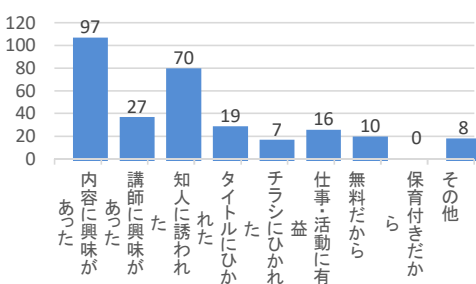
【地域】



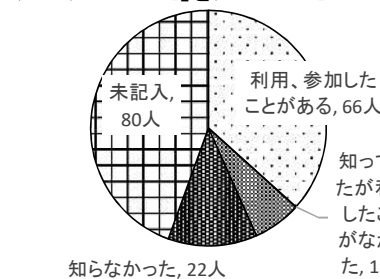
【満足度】



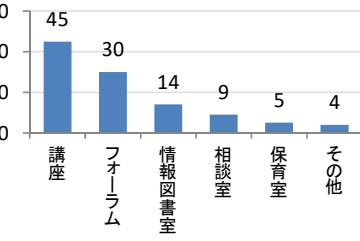
【参加動機 (複数回答)】



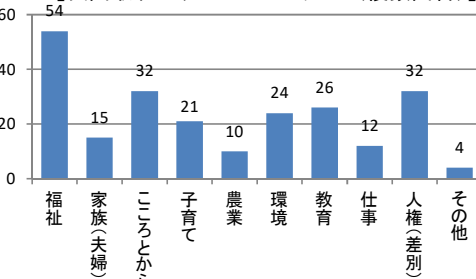
【「アルザにいがた」を知っていたか？ 利用したことはあったか？】



「利用あり」の内訳 (複数回答)



【次回取り上げてほしいジャンル (複数回答)】



★ 実行委員の感想

アルザフォーラム実行委員には昨年に引き続き応募させて頂きました。

応募した理由は、アルザフォーラムをもっと新潟の皆さんに知って頂きたいという思いからでした。そして昨年実行委員を体験して、とても楽しく私自身の学びにもなったからです。

さて、今回のアルザフォーラムは早くにテーマが決定し、お呼びしたい講師の方々も早々に決まり、ご縁があってジェーン・スーさんと末吉洋文さんにご講演頂く事ができました。

基調講演では当日挨拶させて頂いた通り、大変多くの市民の方々からご応募頂きました。また講演後の会場での皆さんからの感想は、とても嬉しかったです。

分科会では、新潟ならではの素敵な講座を会場の皆さんと作る事ができました。

どちらの講演も新潟の皆さんにアルザフォーラムを知っていただく事ができたと実感しました。

今回のアルザフォーラム 2024 が、また次回に繋がっていくと嬉しいです。

本当にたくさんのご参加ありがとうございました。

そして一緒にアルザフォーラム 2024 を企画実行して下さったアルザにいがた職員の方々、大変お世話になりました。ありがとうございました。とても嬉しかったです！

(森田 妙子)

アルザフォーラムのテーマである「ジェンダー」はその時代・文化により作られ、偏りが生まれることで一定数の人々にモヤモヤとしたものを与えています。そのモヤモヤは 60～70 年代にはウーマンリブ、80～90 年代は男女平等、2000 年代は女性の社会進出・女性活躍という形で世の中に変化を生んでいます。今は VUCA (注) の時代です。そのモヤモヤに対応するには難しく、苦労の連続でした。

基調講演ではスピード感をもってモヤモヤを言語化していただいたジェーン・スーさん。分科会ではモヤモヤを視覚化

し、そのモヤモヤを俯瞰するため「ジェンダーギャップを考えるカルタ」を作るという難易度が高いワークショップにも関わらず、末吉先生の軽やかな語りで全員が作成に成功。相互のやり取り、多様性の受容、ブレない意思、そして挑戦が求められる VUCA の時代に対応できた内容だったのではないかと達成感を味わうことができました。

そして何より、今回のアルザフォーラムで一つの課題にどう取り組んでいくのかということに私自身が挑戦できたこと、また自分の課題にどう行動と結びつけるかを考える機会となりました。

昨年に続き、アルザフォーラムの場に立たせて頂き、ありがとうございました。

(注) 先行きが不透明で、将来を予測することが難しい状態。

(多田 里美)



写真左から 森田委員 / 多田委員

アルザフォーラム実行委員会規約

(名称)

第 1 条 本会の名称は、アルザフォーラム実行委員会（以下「実行委員会」という。）と称する。

(所在地)

第 2 条 実行委員会は、新潟市中央区東万代町 9 - 1 万代市民会館内に置く。

(目的)

第 3 条 実行委員会は、1985 年から毎年開催されてきた「にいがた女性大会」を引き継ぎ、新潟市男女共同参画推進条例に基づき、女性も男性も個性と能力を十分発揮できる社会について、広く市民に啓発し、問題の解決を進める「アルザフォーラム」の企画・運営をすることを目的とする。

(事業)

第 4 条 前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) アルザフォーラムの企画に関すること
- (2) アルザフォーラムの運営に関すること
- (3) その他、前条の目的を達成するために必要なこと

(構成)

第 5 条 実行委員会は、公募や団体・グループ等から推薦される個人及び新潟市で構成する。

(任期)

第 6 条 委員の任期は、当該年度の第 1 回の実行委員会の日から第 3 条の目的が達成する日までとする。

(役員・役員の選任)

第 7 条 実行委員会を運営するために、委員の互選により代表 1 名、副代表 1 名を置く。

2 代表は、実行委員会を代表し会務を統括する。

3 副代表は、代表を補佐し、代表に事故あるときはその職務を代行する。なお、それぞれに事故あるときは、あらたに委員の互選により選出する。

(会計監査)

第 8 条 実行委員会の会計を監査するために、委員以外の会計監査 2 名を委任する。

(顧問)

第 9 条 顧問は、実行委員会の承認を得て代表が委嘱する。

2 顧問は、実行委員会の会議に出席し、意見を述べることができる。

(会議)

第 10 条 実行委員会は、過半数を以て成立する。なお、緊急の場合はこの限りでない。

(事務局)

第 11 条 実行委員会の事務局は、新潟市市民生活部男女共同参画課に置く。

(委任)

第 12 条 この規約に定めるもののほか必要な事項は、実行委員会において協議して定める。

(附則)

この規約は、2005 年 4 月 1 日から施行する。

この規約は、2006 年 4 月 1 日から施行する。

この規約は、2007 年 4 月 1 日から施行する。

この規約は、2008 年 4 月 1 日から施行する。

この規約は、2009 年 4 月 1 日から施行する。

運営協力	
【保 育】 保育グループ秋桜 新潟市登録保育者 【手話通訳】 青木 由美子さん 近藤 美和さん 【要約筆記】 山田 淑子さん 信田 美華さん 織田島 順子さん 吉田 礼子さん 【音響・照明】 新潟照明技研株式会社	
ワークショップ	
放送大学心理臨床研修会・新潟 NPO 法人 女のスペース・にいがた にいがた女性会議 新潟市消費者協会 NPO 法人 健康生きがいづくり新潟 劇団あかつき フードバンクにいがた NPO 法人 日本ファシリテーション協会新潟サロン 特定非営利活動法人 新潟キャリアコンサルタント協会	わいらい夢工房 にいがた女性会議 介護・自立部会 にいがた女性会議 男女平等教育部会 新潟県カーリンコン協会 NPO 法人 ウィメンズサポートセンターにいがた カトレア会 イキイキ健康ふれ愛クラブ元気塾 にいがた女性会議 子どもの人権・子育て支援部会
協賛事業	
NPO 法人 女のスペース・にいがた	劇団 blue ジーンズ
広告協賛	
有限会社 木場商店 にいがた女性会議 保険システム 株式会社	
後援	
NHK 新潟放送局 BSN 新潟放送 NST 新潟総合テレビ	TeNY テレビ新潟 UX 新潟テレビ 21 新潟日報社

協力して下さった皆さんに感謝いたします。ありがとうございました。

実行委員
森田 妙子 多田 里美

2025年3月発行

編集・発行 アルザフォーラム 2024 実行委員会
 事務局 新潟市男女共同参画推進センター「アルザにいがた」内
 〒950-0082 新潟市中央区東万代町 9-1
 TEL 025-246-7713 FAX 025-246-8080
 E-mail alza@city.niigata.lg.jp
 URL <https://www.city.niigata.lg.jp/kurashi/danjo/alza>